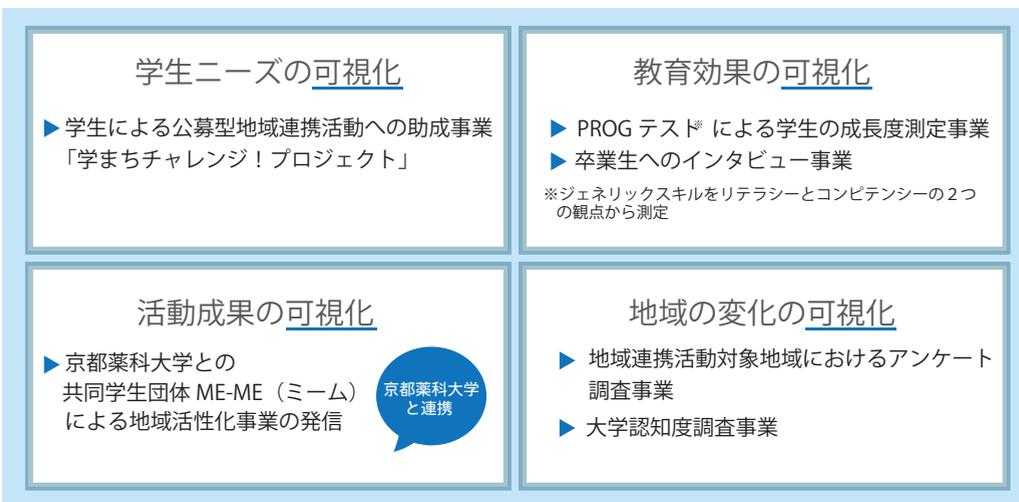


「学まち連携大学」促進事業 山科・醍醐地域で「変化を楽しむ」地域連携型教育プログラム<京都橘大学>

本事業では「山科・醍醐地域で『変化を楽しむ』地域連携型教育プログラム」と題し、地域連携活動の可視化をテーマとした「見える！！地域連携」プロジェクトと、京都薬科大学との連携による「区民に身近な大学へ」プロジェクトの2つを実施しました。

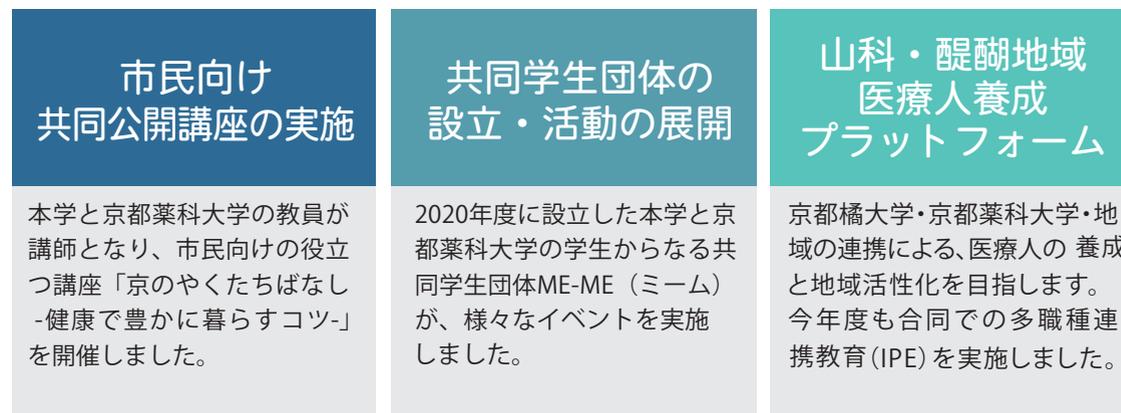
「見える！！地域連携」プロジェクト

地域連携活動を下記4つの視点で可視化（見える化）に取り組みました。



「区民に身近な大学へ」プロジェクト

「地域貢献」と「学生教育」の観点から京都薬科大学と連携し、下記の取り組みを実施しました。



学内の実施体制について

- 本学の地域連携活動を推進する「地域連携センター」
2022年度に意思決定の効率化と議論の活性化を目的に体制を再編しました。
- 「まちづくり研究会」を「地域連携センター」直轄組織へ
2022年度まで経済学部、経営学部、工学部（旧、現代ビジネス学部）の学生会のもとに設置されていた「まちづくり研究会」を、2023年度から地域連携センター直轄の学生組織として全学部の学生が加入できるようにしました。このことから、「まちづくり研究会」の活動の幅（分野）を全学部の領域に広げていくことが可能となりました。
また、これまで「まちづくり研究会」の指導は経済学科と経営学科の教員で担当していましたが、2023年度より作業療法学科の教員が加わり、サポート体制を強化するとともに、医療系学科の特性を生かした地域連携活動を展開しやすいよう強化を行いました。

今後の方向性について

「見える！！地域連携」プロジェクトの卒業生へのインタビュー調査事業では、地域連携活動の経験が社会人としてのキャリアにも大いに役立っていることが示されました。

さらに PROG テストによる成長度測定事業によって、在学中に地域連携活動を積極的に行った学生は、リテラシーやコンピテンシーの成長率がその他の学生よりも高いことが分かり、卒業生インタビューの報告を裏付ける結果となりました。今後はさらに多くの学生に地域連携活動へ参加してもらうために、より一層、学内での広報活動に力を入れていきます。

「区民に身近な大学へ」プロジェクトの京都薬科大学との連携においては、本事業で培った京都薬科大学との連携を生かし、両大学で協議しながら合同での多職種連携教育（IPE）や共同学生団体の活動を継続することで、学生にとって実践的な学びを得る機会を創出していくとともに、両大学が地域住民にとって身近な大学であると感じてもらえるよう努めます。

本事業を通して、地域連携活動が学生の学びや成長に大きく貢献していることが確認できました。また、地域での認知度向上にもつながるものであるとともに、同じ地域に存在する他大学との連携による可能性についても感じることもできました。今後もこの成果を生かして、教職員や学生による多様な地域連携事業の展開に努めていきます。

「見える！！地域連携」プロジェクト（地域連携活動の可視化）

「区民に身近な大学へ」プロジェクト（京都薬科大学との共同事業）



学生の成長・地域での存在感